

I 文化芸術事業の概要

1 札幌芸術賞・札幌文化奨励賞

札幌芸術賞・札幌文化奨励賞は、本市における美術、文学、音楽、演劇、舞踊等の芸術文化の進展に寄与した個人・団体に対する表彰制度であり、本市の芸術文化の振興に資することを目的に、昭和47年度（札幌文化奨励賞は昭和48年度）より実施している。

(1) 賞の概要

賞名(※)	札幌芸術賞(札幌市民芸術賞)	札幌文化奨励賞(札幌市民文化奨励賞)
創設年度	昭和47年度	昭和48年度
選考の対象者	本市に10年以上主たる活動の場を有する個人又は団体で、本市における芸術文化の進展に関し特に業績顕著なものとして、第三者から推薦されたもの。	本市に5年以上主たる活動の場を有する個人又は団体で、本市における芸術文化の進展に関し特に奨励するに値する芸術文化活動を行い、又は市民文化の向上に貢献しているものとして、第三者から推薦されたもの。
贈呈	賞状・賞金(30万円)	賞状・賞金(10万円)
過去受賞者数 (～令和4年度)	129 (個人122、団体7)	161 (個人144、団体17)

※平成13年度に賞名変更

(2) 過年度受賞者

ア 札幌芸術賞

年 度	受 賞 者		
第51回(令和4年度)	大平 由美子	札幌文学会	佐藤 武
第50回(令和3年度)	堅田 喜千城	上遠野 敏	札幌音楽家協議会
第49回(令和2年度)	谷本 聡子	渡辺 美明	(一社)北海道二期会
第48回(令和元年度)	大木 秀一	北村 清彦	文屋 治実
第47回(平成30年度)	阿部 博光	柿崎 熙	混声合唱団 響友会
第46回(平成29年度)	竹内 津代	則竹 正人	宏瀬 賢二
第45回(平成28年度)	杵屋 勝桂	國松 明日香	羽毛 蒼洲
第44回(平成27年度)	角 幸博	土田 英順	HBC少年少女合唱団
第43回(平成26年度)	小泉 のり子	中村 照子	西田 陽二
第42回(平成25年度)	阿部 和加子	荒巻 義雄	中村 隆夫
第41回(平成24年度)	竹津 宜男	森 一生	渡辺 信
第40回(平成23年度)	高岡 立子	竹岡 羊子	中村 昇
第39回(平成22年度)	川井 坦	千田 雅子	三部 安紀子
第38回(平成21年度)	大平 まゆみ	照井 武	堀内 掬夫
第37回(平成20年度)	川越 守	杉山 留美子	谷口 亜岐夫
第36回(平成19年度)	朝倉 賢	木嶋 良治	小原 道城
第35回(平成18年度)	岸本 裕躬	木村 雅信	菅村 敬次郎
第34回(平成17年度)	池上 恵三	我妻 緑巢	清水 武男
第33回(平成16年度)	鬼丸 吉弘	斎藤 大雄	長内 勲
第32回(平成15年度)	藤田 道子	矢崎 勝美	辻井 京雲
第31回(平成14年度)	鈴木 光彦	熊谷 玲子	圓山 彬雄
第30回(平成13年度)	尾崎 志郎	雨貝 尚子	佐々木 秋放
第29回(平成12年度)	阿部 典英	八木 伸子	
第28回(平成11年度)	木村 敏男	伏木田 光夫	西川 鯉蔵
第27回(平成10年度)	米谷 雄平	綿引 幸造	沖中 棟舟
第26回(平成9年度)	藤間 幹寿	小檜山 博	武内 昭二

年 度	受 賞 者		
第25回(平成8年度)	高垣 幸子	松本 暎子	原 義行
第24回(平成7年度)	渡會 純价	佐藤 のり子	
第23回(平成6年度)	鎌田 俳捺子	北海道交響楽団	中野 層翠
第22回(平成5年度)	谷口 一芳	小倉 和子	
第21回(平成4年度)	宍戸 悟郎	伊東 将夫	藤根 凱風
第20回(平成3年度)	原子 修		
第19回(平成2年度)	村岸 文輔	島田 無響	藤堂 志津子
第18回(平成元年度)	佐藤 庫之介	能藤 玲子	
第17回(昭和63年度)	新妻 博	渡辺 伊八郎	
第16回(昭和62年度)	砂田 友治	竹岡 和田男	
第15回(昭和61年度)	篠原 邦幸		
第14回(昭和60年度)	畠山 三代喜		
第13回(昭和59年度)	亀山 良雄	大本 靖	
第12回(昭和58年度)	上遠野 徹		
第11回(昭和57年度)	坂 坦道	柄内 忠男	
第10回(昭和56年度)	本田 明二	吉田 十四雄	(財)札幌交響楽団
第9回(昭和55年度)	沙原 聖子	横谷 瑛司	
第8回(昭和54年度)	繁野 三郎		
第7回(昭和53年度)	遠藤 道子	小川 東洲	高橋 揆一郎
第6回(昭和52年度)	國松 登		
第5回(昭和51年度)	松本 春子	小沢 輝佐子	
第4回(昭和50年度)	水口 幾代	小谷 博貞	
第3回(昭和49年度)	荒谷 正雄	中野 北溟	本山 節彌
第2回(昭和48年度)	佐藤 岡豊	千田 モト	澤田 誠一
第1回(昭和47年度)	栗谷川 健一	河邨 文一郎	

イ 札幌文化奨励賞

年 度	受 賞 者		
第50回(令和4年度)	會田 千夏	小杉 恵	北海道作曲家協会
第49回(令和3年度)	大黒 淳一	陣内 麻友美	山本 聖子
第48回(令和2年度)	尾崎 要	クスマ エリカ	札幌合唱団
第47回(令和元年度)	奥山 健恵	特定非営利活動法人コンカリーニョ	
第46回(平成30年度)	影山 裕子	前澤 良彰	Mizuho
第45回(平成29年度)	阿地 信美智	一鐵 久美子	加藤 正叙
第44回(平成28年度)	近江 宏	大阪 克彦	松井 亜樹
第43回(平成27年度)	石田 敏明		
第42回(平成26年度)	澁谷 俊彦	八木 幸三	山田 航
第41回(平成25年度)	浅井 智子	久保田 隆洲	佐々木 秀明
第40回(平成24年度)	川上 りえ	福居 良	若宮 明彦
第39回(平成23年度)	伊藤 隆介	大嶋 恵人	五條 明鈴
第38回(平成22年度)	谷口 明志	富田 とき子	
第37回(平成21年度)	駒ヶ嶺 ゆかり	下沢 敏也	
第36回(平成20年度)	札幌アカデミー合唱団	平向 功一	若狭 弘樹
第35回(平成19年度)	大杉 洋子	南 聡	
第34回(平成18年度)	トリオ・ダ・ソレ札幌	ソノソノ・マリア弦楽四重奏団	早川 涉
第33回(平成17年度)	源 鬼彦	岡本 孝慈	佐藤 浩司
第32回(平成16年度)	端 聡		札幌フィルハーモニー管弦楽団
第31回(平成15年度)	臼井 千百	萩原 のり子	札幌シンフォニエッタ
第30回(平成14年度)	中村 隆夫	阿部 博光	富岡 雅美 赤川 智保

年 度	受 賞 者				
第29回(平成13年度)	則竹 正人	梅本 実	椎名 智恵子		
第28回(平成12年度)	水田 香				
第27回(平成11年度)	市川 映子	吉川 順子			
第26回(平成10年度)	金田一 仁志	若柳 旭甫	大楽 勝美		
第25回(平成9年度)	中島 洋	谷本 聡子	安東 泰寿	今藤 長三四	
第24回(平成8年度)	斎藤 歩	谷口 亜岐夫	橋本 賀寿井	花柳 金栄	梅津 恒見
第23回(平成7年度)	小原 道城	蓼 胡雄輝	森 一生	二反田 岳水	桑山 真弓
第22回(平成6年度)	西川 隆久	太田 晃正	辻脇 系一	長内 勲	藤間 藤輝
第21回(平成5年度)	國松 明日香	新村 訓平	黒河 好子	須藤 恭央	中島 聖山
第20回(平成4年度)	太田 明彦	岸田 頌子	宇川 隆雄		
第19回(平成3年度)	佐藤 雅英	村田 高生	西川 鯉蔵		
第18回(平成2年度)	松田 由理子	吉武 知伊子	山田 緑光	近江 善正	
第17回(平成元年度)	戸坂 恵美子	原田 玉嶺	玉川 雄介	難波 鼓章	
第16回(昭和63年度)	館 圭子	三ヶ森 茂夫	ささきみつあき	原 賢司	加藤 秋霜
第15回(昭和62年度)	旭 吟城	劔持 小枝			
第14回(昭和61年度)	加藤 貴美穂	下沢 土泡			
第13回(昭和60年度)	長根 雅楽悠美	武内 昭二	窪田 薫	長野 京子	
第12回(昭和59年度)	松崎 染孝	福居 天童	川越 守	山岸 巨狼	
第11回(昭和58年度)	伊藤 鈴鳥	グループ「りら」	斉藤 信和		
第10回(昭和57年度)	佐々木 孝	佐々木 伸浩	雨貝 尚子		
第9回(昭和56年度)	宮崎 芳男	北海道詩吟連盟	松本 晁章	金森 登喜子	
第8回(昭和55年度)	中川 清風	札幌民謡連盟		宍戸 悟郎	
第7回(昭和54年度)	菱川 善夫	人形劇団「ひよっこ」		五條 珠淑	
第6回(昭和53年度)	方究会	杉山 安次	池上 恵三	高垣 幸子	村岸 文輔
第5回(昭和52年度)	森の仲間	安斎 奈々見	混声合唱団	響友会	浅井 淑子
第4回(昭和51年度)		俳句結社「はまなす」		相原 宗和	花柳 秀恵以
第3回(昭和50年度)	南 利一	山崎 紅水	芦野 トシ	高岡 立子	札幌川柳社
	木原 直彦				
第2回(昭和49年度)	内山 義雄	北出 清一	山田 喜代	佐薙 のり子	
第1回(昭和48年度)	今井 篁山	西 明美			

2 市民ロビーコンサート

昼休みのひとときを、市役所ロビーにおいて気軽に楽しめるコンサートとして、昭和55年8月より開催。出演は主として本市にかかわりのある中堅音楽家で、これまでクラシックを中心に495回、延べ出演者数は1,098人に達している(令和5年3月末現在)。

このコンサートは、優れた演奏に接することができる場を提供するものとして、多くの市民に親しまれており、音楽文化の振興に寄与するだけでなく、オフィス街での貴重なうるおいの場となっている。

(1) 事業概要

主 催：市民ロビーコンサート運営委員会

場 所：市庁舎1階ロビー

開催日：原則として月1回(第4金曜日)

時 間：12時25分開演(約20分間)

(2) 令和4年度出演者・曲目 (令和4年度来場者数：472人)

回数	開催日	出演者	主な曲目
486	4月22日	荻原 るうか (ピアノ) 鈴木 椋太 (ピアノ)	エチュード Op.10-1 (ショパン作曲) ほか3曲
487	5月27日	【札幌管楽ソリスト】 佐藤 香澄 (フルート) 水野 麻衣子 (オーボエ) 畑田 咲藍 (ホルン) 祐川 嵩雄 (ファゴット) 福井 遥香 (クラリネット)	木管五重奏曲変ロ長調 Op.56-1 より第一楽章 (フランツ・ダンツィ作曲) ほか2曲
-	【開催中止】 6月24日	-	-
488	7月22日	【PMF2022 参加アーティスト】 ハイツ・コル (ヴィオラ) 佐久間 晃子 (ピアノ)	ヴィオラとピアノのための悲歌 作品30 (ヴェーゲン作曲) ほか1曲
489	8月26日	笹尾 雅代 (ソプラノ) 中島 幸治 (ピアノ)	「民謡編曲集」より「グリーンスリーブス」、「夏の名残のばら」(ブリテン作曲) ほか3曲
490	9月30日	【フルートアンサンブル ルーミー】 工藤 優奈 (フルート) 関口 さくら (フルート) 山本 初音 (フルート)	碧い月の神話 (石毛里佳 作曲) ほか4曲
491	10月28日	菊池 春香 (ピアノ)	映像第1集より「水の反映」(ドビュッシー作曲) ほか2曲
492	11月18日	斉藤 祐太 (ヴァイオリン) 五十嵐 彩子 (フルート) 眞岸 祥平 (ピアノ)	愛の挨拶 (エルガー作曲) ほか3曲
493	12月23日	樋本 朱音 (ヴィオラ) 永沼 絵里香 (ピアノ)	「和声と創意への試み」より第4『冬』2楽章 (ヴィヴァルディ作曲) ほか2曲
494	1月27日	前田 奈央子 (ソプラノ) 押切 雄太 (ピアノ)	春の声 (ヨハン・シュトラウス2世 作曲) ほか3曲
495	2月24日	【市民芸術祭新人音楽会大賞受賞者】 菊池 萌花 (サクソフォン) 高橋 茉椰 (ソプラノ) 古川 佳奈 (ピアノ) 沼畑 春帆 (ピアノ伴奏) 永沼 絵里香 (ピアノ伴奏)	seagull (真島俊夫 作曲) ほか3曲
-	【中止】3月	-	-

3 主な文化芸術事業・団体への補助

札幌市民芸術祭実行委員会や(公財)札幌交響楽団などに対し、補助金を交付している。(単位：千円)

団体名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
札幌市民芸術祭実行委員会	8,175	8,956	12,003
(公財)札幌交響楽団	160,000	160,000	160,000
札幌文化団体協議会	2,144	2,144	2,144
(公財)北海道演劇財団	3,430	3,430	3,430

※札幌市民芸術祭実行委員会の令和2年度、令和3年度補助金は新型コロナウイルスの影響により、事業費が縮減したことによる。(当初予算額は12,003千円)

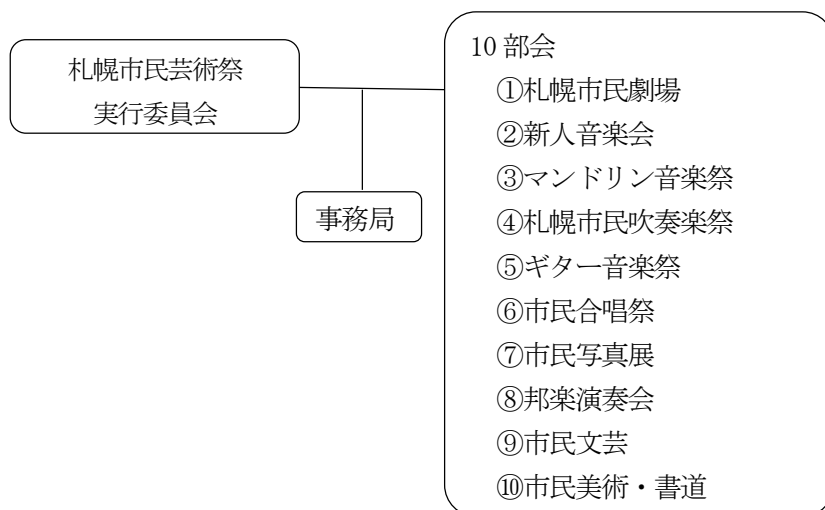
＜主な交付団体の状況＞

(1) 札幌市民芸術祭実行委員会

昭和 22 年から開催されていた「市民美術展」を発端とし、昭和 33 年の市民会館開館を機に「市民劇場」がスタートした。その後、昭和 48 年に多くの市民参加により札幌市民芸術祭実行委員会が発足した。札幌市民芸術祭は、美術、音楽、演劇、舞踊、文芸などの文化芸術各分野における市民の創造発表活動を促進することを目的としており、10 の部会で構成された実行委員会により、幅広く事業を展開している。

ア 組織概要

10 の部会で構成され、実行委員会委員 16 人、部会委員 108 人その他専任の事務局員により、年間を通して事業の推進に当たっている。

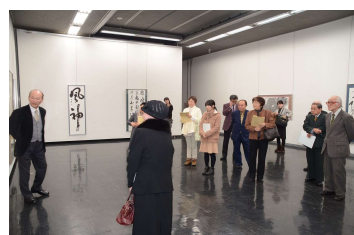


イ 顕彰制度

特に優秀な発表を行った団体及び個人に対し札幌市民芸術祭大賞を、大賞に準ずるもの又は将来性が高く期待される発表を行った団体及び個人に対し札幌市民芸術祭奨励賞を授与している。



新人音楽会



市民美術・書道展

(2) 札幌交響楽団

昭和 37 年設立。道内唯一のプロオーケストラとして、各種演奏会のほか、青少年に対する音楽普及活動や福祉施設での演奏など、様々な教育・社会活動を、本市のみならず全道で展開し、音楽文化の向上に寄与している。

ア 組織概要

事務局所在地 札幌市中央区中島公園 1 番 15 号 札幌コンサートホール内

電話 011-520-1771

URL <https://www.sso.or.jp/>

楽団員数 73 名（令和 5 年 3 月末日現在）

演奏回数 114 回（定期演奏会 20 回）

決算総額 1,027,637 千円（令和 4 年度）

イ 活動内容（令和4年度）

			公演数	入場者数(人)	内 容
自主公演	定期公演	市内	20	20,668	定期演奏会
		市内	14	18,455	名曲シリーズ、夏休みスペシャル、札幌の第9等
	特別公演	道内	9	3,169	
		東京	1	1,218	
依頼公演	市 内	26	33,855		
	道 内	18	10,257		
	道 外	0	0		
音楽教室	市 内	11	19,080		
	道 内	10	7,096		
	道 外	5	477		
合 計			114	114,275	

4 写真文化振興事業

市民の貴重な財産である札幌の歴史や風俗等を記録した写真を活用し、市民が気軽に写真芸術に親しめる機会を創出するなど、写真文化の振興を目的として平成22年度より事業を開始し、写真展や写真教室を開催している。

(1) 北一条さっぽろ歴史写真館

北一条地下通路を歴史写真館として、(株)セイコーマート（現 (株)セコマ）の協力を得て施設整備を行い、平成23年9月22日にオープンした。NPO法人北海道を発信する写真家ネットワークが、年2回展示内容を企画している。

展示テーマ	開催期間
「市民生活を支えてきた陸上運輸の変遷」	4. 10. 31-5. 3. 27
「さっぽろのこども」	5. 3. 28-5. 9. 30（予定）



(2) 写真展

内容	開催期間
公募参加型写真展「Hello, Again ～私の好きな『北海道』、もういちど」	4. 11. 11～15
一般社団法人日本旅行写真家協会設立30周年記念写真展「FIND JAPAN」	4. 11. 11～15
NPO 法人北海道を発信する写真家ネットワーク 15周年記念写真展「Discover HOKKAIDO」	4. 11. 11～15

(3) 飯沢耕太郎講演会

写真評論家飯沢耕太郎氏による講演（4. 11. 11）

5 パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌 (PMF)

次代を担う若手音楽家の育成を通して、音楽の普及・発展を目指す国際教育音楽祭パシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) は、20 世紀を代表する指揮者、作曲家そして教育者として知られるレナード・バーンスタイン (1918～1990) の提唱により、平成 2 年に創設された。

PMF は世界で活躍する音楽家を教授陣に迎え、世界各国・地域からオーディションで選ばれた若手音楽家を育成する「教育事業」、教授陣やアカデミー生、ゲストアーティストにより多彩なコンサートを行う「演奏会事業」、クラシック初心者向けの音楽講座や PMF オーケストラのリハーサルを見学することができるオープンリハーサルなど、音楽の幅広い普及をめざす「音楽普及事業」の 3 部門で構成されている。



<PMF2022 実施概要>

事業内容	開催期間	会場	入場者数等
1 教育事業 世界各国から選抜した若手音楽家 (アカデミー生) に対する最高水準の教育を実施	7/11～8/2	札幌コンサートホール Kitara ほか	アカデミー生 20 か国・地域 52 名
2 演奏会事業 教育事業参加の若手音楽家の演奏会、オーケストラ演奏会、教授陣・ゲストアーティスト等による各種演奏会を開催	7/15～8/2	札幌コンサートホール Kitara、札幌芸術の森・野外ステージ ほか	計 25 公演 入場者数：13,322 人
3 音楽普及事業 市民等に対し、音楽教育の公開やその他音楽の普及に関する事業を実施			
(1) リンクアップ・コンサート アメリカ・ニューヨークのカーネギーホールによる小学生向けの音楽教育プログラムを元に、札幌の児童に合わせて制作したプログラム	7/19	札幌コンサートホール Kitara	参加児童数：578 人
(2) 公開マスタークラス PMF 教授陣が地元で音楽を専攻する学生に指導し、その模様を一般公開	7/13、7/14、 7/23、7/27	札幌コンサートホール Kitara	入場者数：603 人
(3) PMF クラシック LABO ♪ クラシック初心者にもわかりやすくクラシック音楽の魅力伝える音楽講座	7/18、3/24	札幌コンサートホール Kitara、市民交流プラザ	参加者数：333 人
(4) オープンリハーサル PMF オーケストラのリハーサルを一般公開	7/14、7/15、 7/22、7/28、 7/29	札幌コンサートホール Kitara	入場者数：332 人
(5) 学校 DE カルチャー PMF 修了生等の生演奏やトーク、児童の指揮体験などの音楽授業を実施	11/22、11/25	手稲東小、美しが丘緑小	参加校：2 校
(6) 修了生によるミニコンサート 札幌市内のほか東京・京都のホテルや店舗などでミニコンサートを実施	通年	札幌市内及び首都圏の各所	実施回数：15 回

6 さっぽろアートステージ

文化の日の属する11月を文化月間と位置付け、様々なアート系イベントを集中的に実施する事業として、平成17年度から開催。札幌発の文化芸術活動に触れる機会を創出して市民の文化芸術への関心を高めるとともに、発表の機会が少ない団体や個人に発表の場を提供し、文化活動の担い手を育成することを目的としている。

<令和4年度事業概要>

※入場者数にはオンライン上の視聴者数を含む

	事業内容	開催期間	会場	入場者数
舞台芸術部門	札幌劇場祭（18団体、67公演） 札幌劇場祭大賞：弦巻楽団 『#37 1/2 ピース・ピース』 ※他3団体が優秀賞を受賞	11/3-12/4	市内7劇場 演劇専用小劇場 BLOCH 扇谷記念スタジオシアターZOO 札幌市こども人形劇場こぐま座 札幌市こどもの劇場やまびこ座 ターミナルプラザことば PATOS 生活支援型文化施設コンカリーニョ cube garden	3,800人
	北海道中学生演劇発表大会	11/26-27	札幌市教育文化会館	1,500人
音楽部門	サッポロミュージックショーケース 公募選考10組による音楽ライブ	11/19-20	札幌駅前通地下歩行空間	1,866人
学生音楽部門	さっぽろスクール音楽祭 市内小中学校、高校の合唱・器楽・ 吹奏楽クラブによる演奏	11/13	Kitara コンサートホール	4,098人 ※参加校 合唱8校 器楽・吹奏楽22校
美術部門	アートストリート 札幌を中心に活躍する現代アート 作家等によるインスタレーション 作品や映像作品等を展示	11/5-23	札幌駅前通地下歩行空間 札幌市民交流プラザ	551,850人
	スクールアートライブ 市内高校の美術部による美術作品 の展示	11/5-23	札幌駅前通地下歩行空間	参加校 4校
	キッズアートフェス 子ども向けワークショップ (一部事前開催)	10/15, 29 11/5-6	札幌市民交流プラザ	62人
	ボーダレスアート作品展 障がい児/者やその支援者による美術 作品の展示	11/6-23	札幌駅前通地下歩行空間	アートストリ ートに含む

7 サッポロ・シティ・ジャズ

国内有数の大型ジャズフェスティバルとして平成19年度から開催。

札幌文化芸術劇場「hitaru」や札幌芸術の森野外ステージでの国内外のトップアーティストによるライブステージのほか、市内各所で開催した市民アーティスト参加型のライブなど、バラエティに富んだプログラムを実施

<令和4年度事業概要> 開催期間：通年（フェスティバル期間：夏R4. 7. 16-8. 28, 冬R4. 12. 2-R5. 2. 26）

夏は「パークジャズライブ」を市内各所において3年ぶりにライブ開催し、冬には「シアタージャズライブ」をはじめとする各種ライブを市民交流プラザで実施

事業内容	開催期間等	会場	入場者数
札幌観光資源の創出			
ノースジャムセッション	4. 8. 28	札幌芸術の森野外ステージ	1, 190 人
シアタージャズライブ	4. 12. 2-7	札幌文化芸術劇場 hitaru	2, 471 人
企業・団体とのタイアップによる事業の普及			
サッポロ・サウンド・スクエア	4. 4. 27-5. 1. 14	札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場	2, 616 人
TAIYO GROUP×SAPPORO CITY JAZZ タイアップ公演	4. 7. 20	札幌文化芸術劇場 hitaru	778 人
創成 EAST JAZZ	4. 10. 1-2	北海道ガス東側屋外スペース	846 人
RUSUTSU 100 days Music Live Season11	4. 12. 18-5. 3. 27	ルスツリゾート	10, 000 人
札幌時計台 LIVE2023 × SAPPORO CITY JAZZ	5. 2. 1-2. 9	札幌時計台	344 人
サッポロ・シティ・ジャズ2022 Kick Off Live	4. 7. 10	さっぽろ地下街オーロラプラザ	210 人
札幌市民交流プラザを活用した教育普及事業			
ユニバーサルジャズライブ	4. 12. 3	札幌市民交流プラザ SCARTS コート	185 人
ランチタイムコンサート	4. 12. 4	札幌市民交流プラザ SCARTS コート	80 人
ジャズライブラリー	4. 11. 17-12. 13	札幌市民交流プラザ 札幌市図書・情報館	1, 626 人
シティジャズオフィシャルブース	4. 12. 2-7	札幌文化芸術劇場 hitaru ホワイトエ	672 人
ユニバーサルジャズライブ	4. 12. 3	札幌市民交流プラザ SCARTS コート	185 人
文化芸術を通じた市民活動の促進			
パークジャズライブ	4. 7. 16-17	大通公園2丁目ほか	21, 429 人
パークジャズライブコンテスト	4. 7. 18	札幌芸術の森アートホール	323 人
育成・支援事業			
札幌ジュニアジャズスクール	通年	札幌芸術の森アートホールほか	—
ジャズの種プロジェクト	通年	砂川市、幕別町、羊蹄山麓町村、 広尾町の各会場	—
ユースジャムセッション	通年	札幌芸術の森アートホールほか	—
質の高い文化芸術の創造・提供			
ビックバンドプロジェクト定期演奏会	5. 1. 28-29	札幌コンサートホール	740 人
国際交流事業			
国際ユースジャズキャンプ	5. 2. 24-26	札幌芸術の森アートホールほか	—

8 子どもの文化芸術体験事業

(1) こころの劇場（子どものミュージカル体験）

日ごろ接する機会の少ない本格ミュージカルのすばらしさを、感性豊かな子どものときに体験してもらうことを目的として、市内の小学6年生を劇団四季のミュージカルに無料招待する事業。

昭和54年度から、（財）ニッセイ文化振興財団との共催により「ニッセイ名作劇場」として開催し、平成20年度からは、（一財）舞台芸術センター、四季株式会社（劇団四季）との共催により「こころの劇場」として開催している。

<平成30-令和4年度事業実績>

	公演数	会 場	演 目	鑑賞者数
平成30年度	8	ニトリ文化ホール	「王様の耳はロバの耳」	202校、15,855人
令和元年度	8	札幌文化芸術劇場 hitaru	「カモメに飛ぶことを教えた猫」	203校、16,054人
令和2年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止			
令和3年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止（動画配信による代替実施）			
令和4年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止（動画配信による代替実施）			

(2) Kitaraファースト・コンサート

オーケストラ演奏を鑑賞する機会を創出し、豊かな情操教育の推進、次世代を担う子どもたちへの音楽文化の普及振興を図るため、札幌市内の全小学6年生及びさっぽろ連携中枢都市圏の小学6年生を対象とし、優れた音響を誇る札幌コンサートホールKitaraで、オーケストラ演奏を鑑賞・体験させる事業を例年実施している。

平成16年度より実施している本事業は学校授業の一環となっており、教職員の協力による事前学習のほか、当日の公演の中では楽器解説なども行っている。

<令和4年度事業概要>

開催時期 令和4年10月13日（木）～14日（金）、10月25日（火）～28日（金）6日間11公演実施

出 演 札幌交響楽団、キタラ専属オルガニスト

曲 目 エルガー 行進曲「威風堂々」第1番 ニ長調

モーツァルト セレナード 第13番ト長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第1楽章

ヨハン・シュトラウス ラデツキー行進曲 ほか

参加者数（児童及び引率者数の合計）

年 度	参加者数（学校数）
令和2年度	-
令和3年度	9,588人（131校）
令和4年度	17,160人（244校）



(3) おとどけアート

アーティストと触れ合う機会を通じて、子どもたちが芸術的感性を育むことを目的に、平成20年度より実施している。小学校にアーティストを派遣し、短期間滞在させることで、ともに作品を制作するなどの「アート体験」を提供した。

<令和4年度事業概要>

学校名	アーティスト名	期 間	参加者数
札幌市立琴似小学校	クスマエリカ	4.8.26-5.3.1	児童582人、教職員41人、計623人
札幌市立伏古小学校	進藤 冬華	5.2.1-5.3.16	児童362人、教職員23人、計385人
札幌市立藤野南小学校	大島 慶太郎	4.10.20-5.3.16	児童314人、教職員24人、計338人

(4) ハロー！ミュージアム

子どもたちが優れた文化芸術に触れる機会の充実を図り、創造性を育むことを目的として、平成20年度から実施している。札幌市内の全小学5年生を対象とし、札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館へ招待し、本物の芸術に触れ、学ぶ機会を提供する事業。

各施設の特色を生かし、美術の鑑賞活動や造形活動プログラムを行った。

<令和4年度事業概要>

プログラム

芸術の森美術館コース：札幌芸術の森美術館での鑑賞活動

野外美術館コース：札幌芸術の森野外美術館での鑑賞活動

子どもアトリエコース：佐藤忠良記念子どもアトリエでの鑑賞・表現活動

彫美・鑑賞コース：本郷新記念札幌彫刻美術館での鑑賞活動

彫美・表現コース：本郷新記念札幌彫刻美術館での鑑賞・表現活動

期 間：令和4年5月17日（火）～令和5年2月28日（火）

参加学校数：市内小学校 192校

（芸術の森美術館コース81校、野外美術館コース87校、子どもアトリエコース11校、彫美・鑑賞コース11校、彫美・表現コース2校）

参加児童数：13,622人

(5) ニッセイ名作シリーズ鑑賞

オペラやバレエ、人形劇など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を子どもたちに提供するため、札幌市内及びさっぽろ連携中枢都市圏の小学4年生を対象として実施する事業。令和5年度から、（財）ニッセイ文化振興財団との共催により開催する。

9 札幌国際芸術祭

札幌国際芸術祭（Sapporo International Art Festival 略称：SIAF^{サイアフ}）は、3年に1度、札幌市内各所で開催される国際的なアートフェスティバル。平成26年度の初開催から、平成29年度には第2回となるSIAF2017を開催、令和2年度はSIAF2020を開催予定であったが、新型コロナウイルスの流行を受けて中止した。

令和5年度にSIAF2024を開催予定であり、令和4年度はその準備としてさまざまな広報活動や普及事業等を行った。

(1) SIAF2024 開催準備

SIAF2024は、降雪等の札幌の特徴がより強く発揮できる冬季開催とし、ディレクターに小川秀明氏を選任した。

<開催概要>

項目	内容
名称	札幌国際芸術祭 2024（日本語） Sapporo International Art Festival 2024（英語） ウサ モシリ ウン アシカイ ウタラ サッポロ オッタ ウエカラバ Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa 2024（アイヌ語）
会期	2024年1月20日（土）～2月25日（日）【37日間】
会場	東1丁目劇場、さっぽろ雪まつり大通2丁目会場、札幌文化芸術交流センター SCARTS、北海道立近代美術館、モエレ沼公園、札幌芸術の森美術館、地下公園
テーマ	ラスト スノー LAST SNOW
サブテーマ	はじまりの雪（日本語） Where the Future Begins（英語）

	ウパステ Upaste (アイヌ語)
ディレクター	小川秀明 (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表/アーティスト)
主催	札幌国際芸術祭実行委員会/札幌市

(2) 令和4年度実施事業

ア 広報プロモーション

項目	概要
記者発表等の広報展開	SIAF2024の全体コンセプト等を記者発表した他、イベント情報などを海外へも発信した。また、街頭ビジョンやサイネージ等でプロモーション映像を放映し、SIAF2024をPRした。
特設ウェブサイト	SIAFについてよく知らない方にも手軽に情報を届けられるようSIAF2024の特設ウェブサイトを構築、ポータルサイトにはない仕組みを用いてより興味を持ってもらえるよう取り組んだ。
SNSでの情報発信	冬季イベント開催に合わせてInstagramでSNS広告を出稿し、若年層にもアプローチを行った。

イ 札幌国際芸術祭普及事業

項目	概要
SIAF プレイイベント	<p>ディレクターとなった小川氏がトークイベントを開催し、直接市民にコンセプトを周知した。</p> <p>◇ディレクターズトーク「Art for Future アートを通して未来を探る」 ：令和4年6月26日SCARTSで開催、参加65名</p> <p>また、初の冬季開催に向けた機運醸成や実証実験のため、屋外展示プログラム等様々な取り組みを行った。</p> <p>◇スマイルリンクさっぽろ：令和5年2月アカプラで開催、来場34,149名</p> <p>さらに、SIAF2024のキーワードである「教育」にも注力し、教育に携わる参加者を募り、小川ディレクターや学校関係者とのパネルディスカッションの場を作った。</p> <p>◇教育喫茶はじめます〜アート・サイエンス・テクノロジー×教育のいま〜：令和5年2月18日さっぽろテレビ塔で開催：参加38名</p>
SIAF ふむふむシリーズ	<p>市内美術館や文化施設と連携し、さまざまな事業を行った。</p> <p>普段アートと関わる機会が少ない方に向けた取組として、札幌芸術の森美術館と連携し、視覚障がいを持つ方のために全身を使った鑑賞方法を伝えるワークショップ、近代美術館とは聴覚障がいをもつ方のために手話で解説を行い、鑑賞後感想を共有できる場を設けたプログラムをそれぞれ実施した。</p> <p>◇美術を耳から目から体験してみよう：令和4年8月27日芸術の森野外美術館にて開催、参加14名</p> <p>◇シュワー・シュワー・アワーズ：令和4年10月15～16日北海道立近代美術館にて開催、参加27名</p> <p>また、青少年科学館と連携して子どもにも分かりやすいYouTube動画を配信した。</p> <p>◇札幌市青少年科学館でふむふむ：令和5年3月31日時点で計1,143回再生</p>

	これらは、来場者の目線に立ってより幅広い方にアートやテクノロジーを体感してもらうためのきっかけづくりとなった。
SIAF ラウンジの活用	各種 SNS で発信している情報をまとめて掲示することで、併設したカフェに立ちよった方にも情報発信ができるような工夫を継続して実施。 また、SIAF に関心がある方に向けて登録制オンラインサロンを立ち上げ、進行中のプログラム等についての感想や意見を共有する場を作った。

ウ SIAF ラボの活動

「SIAF ラボ」は、SIAF を支える文化の土壌づくりを目指して平成 27 年に誕生し、以降、ジャンルの垣根を超えて多彩なプログラムを実施するオープンなプラットフォームとして活動している。

項目	概要
S. I. D. E. (サイド) プロジェクト	SIAF ラボが研究機関や外部アーティストと連携しながらさまざまな領域の専門家とのネットワーク形成及び新たな表現形態を模索するプロジェクトを継続。 未完のアートプロジェクト「Island Eye Island Ear (孤島を丸ごと楽器化することを目指した幻のコンサート計画)」を北海道で初演することを目指し、リサーチや公開実験等を行った。
SCARTS×SIAF ラボ 冬の展覧会 2023	札幌文化芸術交流センターSCARTS と SIAF ラボが共同で行っている冬の展覧会は令和 4 年度で 5 回目となり、市民にも新たな冬の魅力を感じてもらえるような雪とテクノロジーを使った作品を複数展示した。 ◇令和 5 年 2 月 SCARTS にて開催、来場 2,828 名

10 札幌演劇シーズン

札幌で生まれた優れた演劇作品を、夏季・冬季にそれぞれ約 1 ヶ月間連続公演する演劇事業。平成 23 年度から開催し、札幌市では平成 24 年度から支援を行っている。

<令和 4 年度事業概要>

札幌演劇シーズン 2022-夏：令和 4 年 7 月 30 日（土）～令和 4 年 8 月 20 日（土）

札幌演劇シーズン 2023-冬：令和 5 年 1 月 21 日（土）～令和 5 年 2 月 18 日（土）

	上演作品	上演期間	会場	入場者数
札幌演劇シーズン 2022-夏 入場者数 計：4,314 人	「アンネの日記」	R4. 7. 30-8. 7	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	670 人
	「THE BEE」	R4. 8. 6-13	扇谷記念スタジオ シアターZOO	537 人
	「12 人の怒れる男」	R4. 8. 13-8. 20	かでのホール	3,107 人
札幌演劇シーズン 2023-冬 入場者数 計：2,389 人	「春の黙示録」	R5. 1. 21-28	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	622 人
	「ひかりごけ」	R5. 1. 28-2. 4	扇谷記念スタジオ シアターZOO	810 人
	「からだの贈りもの」※	R5. 2. 4-11	生活支援型文化施設 コンカリーニョ	—
	「畳の上のシーラカンス」	R5. 2. 11-18	演劇専用小劇場 BLOCH	620 人
	「イチゴスプーン」 「スパイス・カレー」 (特別プログラム：北海道高校演劇)	R5. 1. 11-12	かでのホール	337 人

※新型コロナウイルスの影響により全日程中止

11 札幌市博物館活動センター事業～博物館整備推進事業

平成13年1月に策定した「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、平成13年11月に博物館の整備に向けた準備施設「札幌市博物館活動センター」（以下「センター」という。）を開設。資料の収集・保存や調査・研究、普及・交流事業など、市民参加型の活動を中心とするソフト事業重視の活動をするとともに、（仮称）札幌自然史博物館の整備に向けた調査・検討を行っている。

なお、平成28年4月にセンターが入居していたリンケージプラザ（中央区北1条西9丁目）の閉鎖に伴い、豊平区の現在地に移転・再オープンした。

(1) 施設概要

所在地 豊平区平岸5条15丁目1-6
 電話番号 011-374-5002 FAX 011-374-5014
 開館時間 午前10時～午後5時
 休館日 日・月曜日、祝日、
 年末年始（12月29日～1月3日）
 入場料 無料
 建物構造 鉄筋コンクリート造2階建ほか
 敷地面積 6,258㎡
 延床面積 2,213㎡



(2) 利用状況

年 度	来館者数	備考	年 度	来館者数	備考
平成13年度	1,388人	11月開設	平成24年度	6,043人	
平成14年度	10,552人		平成25年度	5,927人	
平成15年度	12,297人		平成26年度	5,585人	
平成16年度	11,504人		平成27年度	4,599人	1～3月休館
平成17年度	7,445人		平成28年度	7,151人	現在地に移転
平成18年度	4,928人		平成29年度	9,252人	
平成19年度	7,400人		平成30年度	10,619人	
平成20年度	6,439人		令和元年度	9,057人	3月休館
平成21年度	5,230人		令和2年度	2,816人	4/12～5/30休館
平成22年度	4,541人		令和3年度	3,077人	5/2～7/13、8/27～9/30休館
平成23年度	7,729人		令和4年度	7,870人	
			累計来館者数	151,449人	

(3) 事業概要

ア 資料収集

札幌市内や石狩低地帯を中心とした道内の標本資料について継続的に学芸員が収集する他、市民からの寄贈を受け入れている。（令和5年3月末現在）

資料区分	一次資料(点)	二次資料(点)
地 質	461	7,888
古 生 物	4,344	4,966
動 物	58,673	0
植 物	11,320	12,878
菌 類	1,180	217
考 古	45	0
小 計	76,023	25,949
合 計	101,972	

※一次資料は実物資料（直接資料）、二次資料は実物資料以外の「記録」されることにより生じた資料（間接資料）を指す（「博物館ハンドブック」による）。

イ 調査・研究

(7) 小金湯産クジラ化石

平成 20 年に札幌市南区で発見されたクジラ化石については、3Dデータをもとに形態的特徴についての研究を進めている。

(4) 札幌の希少植物調査

平成 28 年 3 月策定の「札幌市版レッドリスト 2016」に掲載されている絶滅の恐れがある植物を中心に、生息調査や植生調査などを行っている。

(5) 札幌の風穴地の植物・植生調査

市内の特徴的な植生である風穴地の調査に取り組んでおり、令和 4 年度は、手稲山の風穴地と砥石山の風穴地の植物の種類を調査した。

ウ 普及・交流事業

(7) 体験学習会

事業名	開催日	講師	参加者数
ぶらりネイチャー 初夏のお花ガイド	4. 6. 18	山崎 真実 (センター学芸員)	10 人
ぶらりネイチャー きのこウオッチング	4. 9. 10	NPO 法人藻岩山きのこ観察会	20 人
おさんぽミュージアム (創成川・鴨々川)	4. 9. 23	古沢 仁 (センター学芸員) 共催：札幌市河川事業課	10 人
花豆ワークショップ	4. 8. 6- 4. 10. 29 (18 回)	山崎 真実 (センター学芸員) センター展示解説員	200 人
ミュージアムトーク「モイワラン、葉っぱ無し生活の秘密」	4. 11. 12	山下 由美 (福島大学客員准教授)	20 人
ミュージアムトーク「SNS から札幌で発見！変わり者のイチヤクソウ」	4. 12. 17	首藤 光太郎 (北海道大学総合博物館助教)	20 人

(4) 企画展示

事業名	開催日	内容	参加者数
札幌 10 区のなぞ～地形とマチのクロスロード～展	4. 6. 25- 4. 8. 27	札幌の街の形成や歴史が地形・地質に関係していることを紹介。	2,067 人
学芸員は見た！札幌の絶滅危惧植物展	4. 11. 12- 5. 1. 28	札幌の希少植物調査及び資料収集の成果を紹介。	880 人

(5) PR イベント

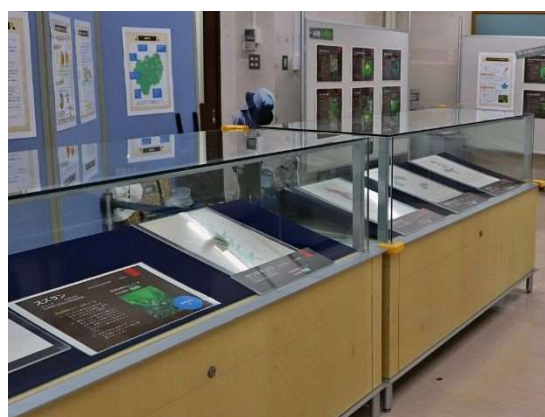
事業名	開催日	内容	参加者数
カルチャーナイト 2022	4. 7. 22	夜間開放、バックヤードツアー、特別展示解説を実施	87 人
「すべては、つながっている。Road to the Sapporo Museum」	5. 2. 4-5	小金湯産クジラ化石の骨格標本や昆虫・植物標本の展示のほか、トークショー、ワークショップをチ・カ・ホで実施し、博物館活動センターの活動内容を紹介。	3,600 人

(I) 学校・他機関等との連携事業

事業名	開催日	内容	参加者数
デリバリー・ミュージアム	4. 6. 22 ほか3日	小学校で学芸員による札幌や学校周辺の自然について講義・実習を実施	4校 287人
サイエンス・フォーラム in さっぽろ	4. 9. 24 5. 1. 21	研究成果を紹介 【主催】サイエンス・コンソーシアム札幌（札幌科学談話会、札幌市中央図書館、札幌市博物館活動センター）	149人
吉田川公園 自然観察会	4. 9. 7	山崎学芸員が公園内の植物を解説しながら観察会を実施。 【主催】月寒公園パークライフコンソーシアム	9人
厚別区まちづくり研修会「厚別区の1億3千万年―地史から見た厚別の特徴―」	4. 11. 26	古沢学芸員が講演。 【主催】厚別区町内連合会連絡協議会	140人
山鼻未来講座「山鼻と植物」	4. 12. 3	山鼻地区の特徴を地形やその成り立ちを踏まえて学芸員が解説した。 【主催】山鼻未来・ネットワーク	41人
西岡公園 ヤンマ団&さかな組の報告展	5. 2. 8- 5. 2. 18	小学生による西岡公園での自然調査活動の成果を共催にて当センターで実施 【主催】(公財)公園緑化協会西岡公園管理事務所	113人



チ・カ・ホでのイベント「すべては、つながっている。Road to the Sapporo Museum」



企画展
「学芸員は見た！札幌の絶滅危惧植物展」

エ (仮称) 札幌自然史博物館整備推進事業

(仮称) 札幌博物館の整備については、平成27年度の中期実施計画「アクションプラン2015」に整備に向けた諸計画を策定する「(仮称) 札幌博物館整備推進事業」が盛り込まれた。

本事業を推進するため、平成27年3月に策定された「(仮称) 札幌博物館基本計画」に基づき、平成31年3月に「(仮称) 札幌博物館展示・事業基本計画」を策定した。

その後は、持続可能な博物館の運営に向けて民間活力の導入手法や学芸系職員の採用方法など他の博物館に調査を継続的に実施し、整備に向けた検討を進めている。

12 学校開放（文化活動）

昭和54年度より、音楽（器楽、合唱、太鼓）、演劇、舞踊、囲碁、将棋、文学などの活動を行うアマチュアグループ、サークル、市民に練習の場を提供するため、学校施設を開放し、文化活動の促進を図っている。

(1) 開放概要

ア 開放時間	火～土曜日	18：00～21：00（3時間）
	日・祝祭日	10：30～12：30（2時間）、13：00～17：00（4時間）
	月曜日	休み
イ 利用料金	18：00～21：00（3時間）	900円
	10：30～12：30（2時間）	600円
	13：00～17：00（4時間）	1,200円

(2) 開放校（令和5年3月31日時点）及び令和4年度の利用状況

小学校名	所在地・開放教室数	利用状況（4年度）			
		利用件数	延べ利用人数	利用率	
二条小学校	中) 南2条西15丁目	1	0件	0人	0%
中央小学校	中) 大通東6丁目	1	0件	0人	0%
幌北小学校	北) 北19条西2丁目	1	263件	3,789人	89.6%
白楊小学校	北) 北24条西7丁目	1	0件	0人	0%
北光小学校	東) 北12条東6丁目	2	0件	0人	0%
元町小学校	東) 北25条東17丁目	1	140件	1,236人	60.9%
大谷地小学校	白) 本通18丁目南	1	0件	0人	0%
南白石小学校	白) 南郷通2丁目南	1	0件	0人	0%
ひばりが丘小学校	厚) 厚別中央2条4丁目	3	240件	1,040人	68.5%
中の島小学校	豊) 中の島2条1丁目	1	217件	349人	84.5%
平岸小学校	豊) 平岸2条14丁目	1	144件	692人	54.4%
清田小学校	清) 清田1条4丁目	1	0件	0人	0%
澄川西小学校	南) 澄川2条5丁目	1	0件	0人	0%
琴似小学校	西) 琴似2条7丁目	1	0件	0人	0%
発寒南小学校	西) 発寒2条4丁目	1	98件	301人	34.3%
手稲鉄北小学校	手) 前田2条12丁目	1	27件	288人	8.9%
合計（16校19教室）			1,129件	7,695人	55.6%

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度は一部施設において開放を休止

13 名義後援

市内で開催される文化芸術行事を奨励するため、名義後援を行うほか、市長賞（賞状）を出賞している。

また、後援する事業のうち希望するものについては、事業名、日程、開催場所等を大通情報ステーション（61ページ）のホームページに掲載するほか、毎月2回発行する文化芸術事業・イベント情報紙「Weekly press（ウィークリープレス）」に掲載し、市内公共施設や宿泊施設等に配布することにより、広く周知を図っている。

年 度	申請件数	市長賞件数 （賞状延枚数）
令和2年度	553件	37枚
令和3年度	845件	42枚
令和4年度	1,073件	53枚

14 文化芸術振興活動への助成

本制度は、市民の国際文化交流活動を助成するため、昭和 53 年度に芸術文化振興基金を創設し、この果実を助成金として交付することで、市民主体の文化芸術活動を継続的に支援している。

昭和 59 年度に青少年の国内外の文化交流活動、平成 4 年度に新人育成を目的とした研修及び公演発表などの活動、平成 27 年度には、文化交流協定等締結都市・姉妹都市との交流活動を助成対象に加えた。また、平成 30 年度募集分から、近年の応募状況を鑑み、青少年文化交流活動助成分野を廃止の上で新人育成活動分野に統合した。令和 4 年度からは実施主体を市から札幌文化芸術交流センター SCARTS へ移し、新たな枠組みで実施している。

基金造成状況及び交付実績（昭和53年度～令和4年度）

（単位：千円）

年度	交付状況			基金造成状況				年度末残高
	交付額	件数	積立額	同左財源				
				一般財源	寄付金	剰余金		
53	900	芸術文化 3 (個人 1 団体 2)	31,441	20,000	10,000	1,441	31,441	
54	1,800	芸術文化 5 (個人 2 団体 3)	3,207			3,207	34,648	
55	3,000	芸術文化 7 (個人 3 団体 4)	41,600	26,000	14,000	1,600	76,248	
56	4,000	芸術文化 11 (個人 5 団体 6)	31,322	20,000	10,000	1,322	107,570	
57	5,600	芸術文化 8 (個人 0 団体 8)	1,770			1,770	109,340	
58	6,400	芸術文化 14 (個人 4 団体 10)	4,225			4,225	113,565	
59	12,100	芸術文化 16 (個人 5 団体 11) 青少年 11 (個人 0 団体 11)	120,029	100,000	20,000	29	233,594	
60	14,350	芸術文化 20 (個人 5 団体 15) 青少年 11 (個人 0 団体 11)	21,560		20,000	1,560	255,154	
61	15,000	芸術文化 16 (個人 4 団体 12) 青少年 15 (個人 1 団体 14)	18,409		18,331	78	273,563	
62	11,260	芸術文化 17 (個人 1 団体 16) 青少年 11 (個人 0 団体 11)	4,770		3,597	1,173	278,333	
63	12,250	芸術文化 17 (個人 1 団体 16) 青少年 16 (個人 0 団体 16)	2,082		1,272	810	280,415	
元	12,960	芸術文化 17 (個人 5 団体 12) 青少年 17 (個人 0 団体 17)	33,105		30,750	2,355	313,520	
2	15,330	芸術文化 20 (個人 3 団体 17) 青少年 15 (個人 0 団体 15)	41,486		32,209	9,277	355,006	
3	21,130	芸術文化 19 (個人 0 団体 19) 青少年 18 (個人 0 団体 18)	104,730	60,000	40,882	3,848	459,736	
4	21,115	芸術文化振興 5 (個人 1 団体 4) 国際文化 25 (個人 2 団体 23) 青少年 13 (個人 0 団体 13)	136,566	100,000	36,566		596,302	
5	18,840	芸術文化振興 6 (個人 1 団体 5) 国際文化 24 (個人 1 団体 23) 青少年 12 (個人 0 団体 12)	11,371		8,805	2,566	607,673	
6	17,137	芸術文化振興 7 (個人 1 団体 6) 国際文化 23 (個人 0 団体 23) 青少年 10 (個人 0 団体 10)	▲ 139		PMF取崩し ▲ 1,225	1,086	607,534	
7	18,081	芸術文化振興 10 (個人 0 団体 10) 国際文化 27 (個人 2 団体 25) 青少年 8 (個人 0 団体 8)	15,855		15,855		623,389	
8	11,259	芸術文化振興 10 (個人 1 団体 9) 国際文化 26 (個人 2 団体 24) 青少年 10 (個人 0 団体 10)	4,708		4,708		628,097	
9	10,582	芸術文化振興 13 (個人 3 団体 10) 国際文化 21 (個人 1 団体 20) 青少年 10 (個人 0 団体 10)	▲ 162		コンサートホール取崩し ▲ 162		627,935	
10	9,182	芸術文化振興 9 (個人 1 団体 8) 国際文化 15 (個人 0 団体 15) 青少年 10 (個人 0 団体 10)	5,322		4,301	1,021	633,257	
11	7,745	芸術文化振興 11 (個人 0 団体 11) 国際文化 16 (個人 1 団体 15) 青少年 7 (個人 0 団体 7)	12,177		10,397	1,780	645,434	
12	7,851	芸術文化振興 13 (個人 3 団体 10) 国際文化 13 (個人 1 団体 12) 青少年 7 (個人 0 団体 7)	1,978		500	1,478	647,412	
13	8,109	芸術文化振興 9 (個人 1 団体 8) 国際文化 12 (個人 1 団体 11) 青少年 8 (個人 0 団体 8)	1,139		350	789	648,551	
14	7,157	芸術文化振興 10 (個人 2 団体 8) 国際文化 7 (個人 1 団体 6) 青少年 7 (個人 0 団体 7)	▲ 101,050		PMF取崩し ▲ 101,050		547,501	
15	6,948	芸術文化振興 14 (個人 4 団体 10) 国際文化 8 (個人 1 団体 7) 青少年 4 (個人 0 団体 4)	▲ 14,750		PMF取崩し ▲ 14,750		532,751	
16	6,834	芸術文化振興 12 (個人 2 団体 10) 国際文化 8 (個人 3 団体 5) 青少年 6 (個人 0 団体 6)	▲ 16,620		PMF取崩し ▲ 19,520	2,900	516,131	
17	6,854	芸術文化振興 16 (個人 2 団体 14) 国際文化 11 (個人 3 団体 8) 青少年 3 (個人 0 団体 3)	▲ 18,447		PMF取崩し ▲ 18,621	174	497,684	
18	6,521	芸術文化振興 10 (個人 1 団体 9) 国際文化 6 (個人 4 団体 2) 青少年 4 (個人 0 団体 4)	▲ 23,711		PMF取崩し ▲ 24,650	939	473,973	
19	5,423	芸術文化振興 16 (個人 4 団体 12) 国際文化 7 (個人 3 団体 4) 青少年 2 (個人 0 団体 2)	▲ 14,325		PMF取崩し ▲ 15,900	1,575	459,648	
20	6,290	芸術文化振興 10 (個人 0 団体 10) 国際文化 6 (個人 1 団体 5) 青少年 3 (個人 0 団体 3)	▲ 12,865		PMF取崩し ▲ 12,850 その他 ▲ 600	585	446,783	
21	6,161	芸術文化振興 15 (個人 2 団体 13) 国際文化 12 (個人 4 団体 8) 青少年 3 (個人 0 団体 3)	▲ 8,690		PMF取崩し ▲ 9,950 その他 10	1,250	438,093	
22	6,524	芸術文化振興 16 (個人 2 団体 14) 国際文化 7 (個人 2 団体 5) 青少年 1 (個人 0 団体 1)	▲ 9,328		PMF取崩し ▲ 9,194	▲ 134	428,765	
23	3,967	芸術文化振興 7 (個人 1 団体 6) 国際文化 7 (個人 4 団体 3) 青少年 1 (個人 0 団体 1)	▲ 9,959		PMF取崩し ▲ 12,200	2,241	418,806	
24	6,482	芸術文化振興 9 (個人 2 団体 7) 国際文化 10 (個人 3 団体 7) 青少年 1 (個人 0 団体 1)	▲ 16,050		PMF取崩し ▲ 16,050	0	402,756	
25	4,829	芸術文化振興 10 (個人 1 団体 9) 国際文化 11 (個人 3 団体 8) 青少年 2 (個人 0 団体 2)	▲ 8,720		PMF取崩し ▲ 9,547	827	394,036	
26	5,472	芸術文化振興 8 (個人 1 団体 7) 国際文化 10 (個人 1 団体 9) 青少年 0 (個人 0 団体 0)	▲ 2,103		PMF取崩し ▲ 2,107	4	391,933	
27	3,841	新人育成 10 (個人 0 団体 10) 交流協定・姉妹都市 8 (個人 5 団体 3) 国際文化 6 (個人 0 団体 6) 青少年 1 (個人 0 団体 1)	▲ 3,766		PMF取崩し ▲ 5,403	1,637	388,167	
28	4,520	新人育成 14 (個人 2 団体 12) 交流協定・姉妹都市 3 (個人 1 団体 2) 国際文化 3 (個人 0 団体 3) 青少年 1 (個人 0 団体 1)	▲ 10,587		PMF取崩し ▲ 10,952	365	377,580	
29	4,076	新人育成 11 (個人 4 団体 7) 交流協定・姉妹都市 1 (個人 0 団体 1) 国際文化 5 (個人 1 団体 4) 青少年 0 (個人 0 団体 0)	67,429		67,281	148	445,009	
30	2,800	新人育成 10 (個人 3 団体 7) 交流協定・姉妹都市 5 (個人 1 団体 4) 国際文化 8 (個人 0 団体 8)	▲ 15,301		▲ 16,386	1,085	429,708	
元	3,851	新人育成 11 (個人 4 団体 7) 交流協定・姉妹都市 1 (個人 0 団体 1) 国際文化 5 (個人 2 団体 3)	23,328		23,328	0	453,036	
2	1,273	新人育成 8 (個人 5 団体 3) 交流協定・姉妹都市 0 (個人 0 団体 0) 国際文化 1 (個人 0 団体 1)	173,330		170,772	2,558	626,366	
3	2,402	新人育成 9 (個人 3 団体 6) 交流協定・姉妹都市 0 (個人 0 団体 0) 国際文化 2 (個人 1 団体 1)	78,970		76,122	2,848	705,336	
4	4,724	特別助成事業 2 (個人 0 団体 2) 一般助成事業 14 (個人 4 団体 10)	130,051		129,406	645	835,387	
計	368,206	※R4からSCARTSに移管	705,336	326,000	319,509	60,417	-	

15 創造都市ネットワーク

文化芸術などに代表される創造性を生かした産業振興やまちづくりを進め、人材育成・集積を図ることで、まちを活性化し、都市ブランド向上にもつなげる「創造都市さっぽろ」の取組推進を目的に、国内外の創造都市とのネットワーク構築や啓発イベントの実施を進めている。

<ユネスコ創造都市ネットワーク (UNESCO Creative Cities Network) >

平成 16 年に、創造的・文化的な産業の育成等により都市の持続可能な発展を目指す世界の都市が、国際的な連携・相互交流を行うことを支援し、文化多様性への理解の増進を図るため、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が設置した枠組み。

札幌市は、平成 25 年 11 月に、文学、映画、音楽、工芸、デザイン、メディアアーツ、食文化の 7 つの登録分野のうち、デジタル技術などを用いた新しい文化的発展やクリエイティブ産業の振興を目指す「メディアアーツ都市」として加盟した。

ネットワークは令和 3 年 11 月に 49 都市を新たに迎え、世界の 295 都市が加盟しており、札幌市は主に同じメディアアーツ都市との交流・連携事業を実施している。

<創造都市ネットワーク日本 (Creative Cities Network Japan) >

創造都市の取組を推進する(又は推進しようとする)地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、わが国における創造都市の普及・発展を図ることを目的に、平成 25 年 1 月に設立された。

ネットワークには令和 4 年 12 月現在、122 自治体及び 43 団体が加盟している。札幌市は設立当初から幹事団体として参加し、セミナー・ワークショップ・部会等の運営に携わってきた。

<令和 4 年度の主な事業>

(1) 人材育成事業

事業内容	開催期間	会場
①CG モデル制作ワークショップ及びコミュニティ形成イベント (全 3 回)	①R4. 7. 30、 R4. 8. 6、20	①SAPPORO Incubation Hub DRIVE
②成果発表会 (最終成果物の CG 映像を放映)	②R4. 11. 19	②さっぽろ地下街オーロラタウン内 大型ビジョン「AUMIRU」

(2) 市内での啓発イベント

事業内容	開催期間	会場	入場者数
メディアアーツ都市札幌×NoMaps プロジェクト ①ローカルクリエイターズエキシビジョン ②世界一静かなフェスティバル「あしたのげいもり」 ③NoMaps×さっぽろ雪まつり 2023 における COUGEN プロジェクトの展開	①R5. 2. 10-12 ②R4. 9. 24 ③R5. 2. 4-11	①札幌駅前通地下歩行空間 ②芸術の森 ③さっぽろ雪まつり 大通会場西 2 丁目	①5,444 人 ②276 人 ③868 人 ※体験者数
メディアアーツ展「Sapporo Parallel Museum」	R5. 2. 4-12	市内 6 会場及びオンライン	約 13,000 人

(3) 創造都市ネットワーク連携事業

事業内容	事業期間	連携先
ユネスコ創造都市間連携事業「創造都市のパン」への参画	R4. 6	国際伝統知識研究所財団 (ITKIF) ほか
マニラ市主催・創造都市国際フォーラムにおける事例発表	R4. 12. 14	フィリピン・マニラ市ほか
「Sapporo Parallel Museum」におけるユネスコ・メディアアーツ都市間連携事業「City to City 2021」の成果展示	R5. 2. 4-12	コロンビア・カリ市、中国・長沙市

16 新型コロナウイルス感染症に関する支援策

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、札幌市でも様々な対策が講じられてきた。それに伴い、文化芸術の分野でも活動の中止や延期など、大きな影響が見られたことから、芸術文化活動を停滞させないため、令和2年度以降支援策を講じており、令和4年度については、以下の支援策を実施。

(1) 文化芸術鑑賞促進事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が文化芸術に触れる機会が減少したことから、その機会の回復、更には新たな利用者層を取り込むことによる鑑賞者の拡大を目指し以下の取組を実施。

<札幌交響楽団による低料金コンサートの実施>

ア Kitara でクラシック！ (札幌コンサートホールKitara 大ホール)

- ・日時：6月2日（木）開演 13:30
- ・料金：全席指定 一般 1,000 円 シニア（65 歳以上）500 円

イ おんぷでステップ♪みんなのオーケストラ in 教文 (札幌市教育文化会館大ホール)

- ・日時：7月29日（金）①開演 11:00 ②開演 14:00
- ・料金：全席指定 一般 1,000 円 中学生以下無料

ウ hitaru でシネマ・ミュージック！ (札幌文化芸術劇場 hitaru)

- ・日時：9月5日（木）開演 19:00
- ・料金：全席指定 一般 1,000 円

コンサート名	日付	設定席数	入場者数	割合
Kitara でクラシック！	6/2	1,848	1,796	97.2%
おんぷでステップ♪みんなのオーケストラ in 教文	7/29 AM	976	651	66.7%
おんぷでステップ♪みんなのオーケストラ in 教文	7/29 PM	976	614	62.9%
hitaru でシネマ・ミュージック！	9/5	2,078	1,894	91.1%
合計	—	5,878	4,955	84.3%

<各美術館企画展の半額補助及び各会期に対応する野外美術館または記念館の入館料の無料化>

ア 生誕100年 藤川叢三展 (本郷新記念札幌彫刻美術館)

- ・会期：6月11日～8月31日
- ・入場者数：1,859人
- ・一般入場料：600円 → 300円

イ 銀の匙 Silver Spoon 展 (札幌芸術の森野外美術館)

- ・会期：7月16日～9月11日
- ・入場者数：23,526人
- ・一般入場料：1,400円 → 700円

ウ 上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ (本郷新記念札幌彫刻美術館)

- ・会期：9月10日～12月11日
- ・入場者数：1,761人
- ・一般入場料：600円 → 300円

エ 北海道の建築展 2022 受け継がれて進む地域性を見つめて (札幌芸術の森野外美術館)

- ・会期：9月23日～10月10日
- ・入場者数：4,370人
- ・一般入場料：1,200円 → 600円

オ 北海道陶芸会 50 周年記念「陶・創造者たち—北の大地と共に—」（札幌芸術の森野外美術館）

- ・会期：10 月 22 日～11 月 6 日
- ・入場者数：2,369 人
- ・一般入場料：1,200 円 → 600 円

カ 野田弘志 真理のリアリズム（札幌芸術の森野外美術館）

- ・会期：11 月 19 日～1 月 15 日
- ・入場者数：18,688 人
- ・一般入場料：1,200 円 → 600 円

	R3 年度	R4 年度	前年比
野外美術館（7～11 月）	14,656 人	45,977 人	<u>313.7%</u>
彫刻美術館（6～12 月）	3,684 人	3,067 人	<u>83.3%</u>
参考：彫刻美術館（6～10 月）	1,454 人	2,205 人	<u>151.7%</u>

※彫刻美術館は R3. 11. 20～R3. 12. 19 まで施設無料化を実施し、11・12 月計 2,230 人が来館。

6～10 月までにおける前年比は 151.7%

(2) 文化芸術活動再開支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている文化芸術活動（公演・展示）において、文化芸術に携わる方々（文化芸術活動を行う市民、芸術家、施設関係者等）の活動再開を支援し、市内文化芸術活動が早期に復興するよう、さらに、その活動の復興により、市民が文化芸術を鑑賞する機会を確保することを目的とし、公演や展示を行う際の劇場、ホール、ライブハウス、ギャラリー等の施設使用料に係る支援金を交付する事業を実施した。本事業は令和 2 年 10 月から開始となったが、11 月のコロナの感染拡大が重なる等、想定より申請件数が少なかったこと、また文化芸術活動が十分に再開したとは言えないことから、未執行分を繰り越し、令和 3 年度も継続して事業を実施した。さらに、令和 4 年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術活動の再開には至っていないことから、従来の支援内容に加え、公演・展示の実施に向けた練習・制作に係る施設使用料についても支援することとし、支援内容を拡充して継続実施した。

<事業概要>

【公演・展示支援】

項目	公演系	展示系	備考
対象期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日に開催されるもの		
補助対象施設	札幌市文化芸術施設、札幌市内の公立及び民間立の劇場、ホール、ライブハウス等で要件を満たす施設	札幌市文化芸術施設、札幌市内の公立及び民間立の美術館、ギャラリー等で要件を満たす施設	左記のうち、市があらかじめ認定した施設が対象
補助対象経費	実演により表現される音楽、舞踊、演劇、古典芸能、演芸その他の芸術・芸能の公演に係る施設使用料	絵画、工芸、彫刻、版画、陶芸、書道、写真その他の芸術の展示にかかる施設使用料	・不特定多数の観客を対象としたものに限る ・設営・後片付け等を含む
支給額	上限 50 万円/日	上限 50 万円/週	施設使用料の半額を補助（上限あり）
申請件数	3,096 件	372 件	

【練習・制作支援】

項目		備考
対象期間	令和4年4月1日から令和5年3月15日に開催されるもの	・事前の登録申請が必要
補助対象施設	市内の公立及び民間立の、貸し出しを主目的としている、利用料金が明示されている施設	
補助対象経費	施設で明示されている施設使用料 絵画、工芸、彫刻、版画、陶芸、書道、写真その他の芸術の展示にかかる施設使用料	・基本料金のみ（付帯設備及び機器、備品、電気等使用料は除く） ・キャンセル料除く
支給額	上限2万円/個人・団体	施設使用料（複数回分の合算も可）の半額を補助
申請件数	181件	

(3) 札幌市文化芸術創造活動支援事業

市の文化芸術に関する短期的及び中長期的な施策について意見交換を行うために設置された「札幌文化芸術未来会議」における議論を踏まえ、きめ細かなアーティスト支援と異分野をつなぐアートマネージャーの育成を目的とする「札幌市文化芸術創造活動支援事業」（補助上限5,000千円）を実施。

アーティスト等の実情をよく知り、各自の課題感に即した支援の取組みを実施する事業者（中間支援団体）に対し補助を行った。

<事業概要>

採択団体 (中間支援団体)	一般社団法人 A I S プランニング	HAUS (Hokkaido Artists Union Studies)	一般社団法人 PROJECTA	公益財団法人 北海道演劇財団
支援概要	①表現活動支援プログラム (5名9団体) ②創作活動支援プログラム (6名) ③コーディネーター人材育成プログラム (12名)	①ハウス・サバイバル・アワード(助成40組) ②アーティストツリー (登録58組)	①助成プログラム (10組25名) ②育成プログラム (アートマネジメント入門講座、ステートメント講座)	上演する劇場施設等を、作品創造の時間として利用するための支援(使用料助成、マッチング等11団体340名)